

1 将来構想策定にあたって

(1) 策定の趣旨

今日、県立高校は、国際化、情報化、高齢化など社会の変化や生徒の個性化・多様化に伴う生徒のニーズの多様化、生徒減少による学校の小規模化をはじめとする少子化の進展への対応など、多くの課題に直面しています。

こうした課題に対応するため、県立高校においては、中長期的視点に立って、高校教育の一層の充実を図るとともに、これまで以上に生徒や社会のニーズに応じた多様で柔軟な教育システムを築き、高校としての今後あるべき姿を実現することが求められています。

このため、各県立高校では、今後とも特色ある教育活動を積極的に展開して、生徒一人ひとりが、夢や希望を抱き、主体的に人や社会とかかわって、変化の激しい社会を心豊かにたくましく生きる力を育てていくことができるよう支援することが重要となります。

こうした課題や要請に応えるため、県教育委員会では、次のことがらを主な内容として、今後の高校改革の基本的な考え方や施策展開の方向を示す県立高校の将来構想を策定するものです。

教育活動の充実
特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備
信頼される学校づくり
教育条件の整備

(2) 構想の期間

この県立高校将来構想は、平成17年度から平成26年度までの10年間を期間とします。

なお、本県の中学校卒業生数の減少は、平成26年度以降も続くことが予測されるため、それを見通した上で、今後の方向性を検討します。

(3) 構想の基本的な考え方

この構想は、次の基本的な視点に立って策定します。

生きる力を育む教育の推進

これからの学校教育においては、生徒一人ひとりが夢や希望を抱き、主体的に人や社会とかかわって、これからの社会を心豊かにたくましく生きる力を育んでいくことが重要です。

このため、基礎的・基本的な知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを含めた確かな学力、豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成に取り組むなど、生徒一人ひとりが21世紀をたくましく生きる力を育む教育を推進します。

社会の変化への対応

今日、国際化、情報化、科学技術の進展や少子高齢化の進行、地球規模の環境問題、産業構造の変化など、教育を取り巻く社会の変化はますます大きくなることが予測され、こうした変化に的確に対応していく必要があります。

このため、異文化を理解し尊重する態度や国際社会の中で活躍できる人材の育成、コンピュータなどの情報機器の活用や情報を適切に判断・分析する資質能力の育成、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎・基本を身に付けた人材の育成などに努めるとともに、男女共同参画社会の実現に向けた意識の形成や、環境に配慮した生活を営む実践的な態度の育成を図るなど、様々な社会の変化に対応した教育を推進します。

生徒の多様化への対応

社会の急激な変化、価値観や生き方の一層の多様化に伴い、能力・適性、興味・関心、進路希望などにおいて様々な生徒が入学しており、このような生徒に、よりの確に対応した教育の推進が求められています。

このため、生徒一人ひとりが、しっかりとした目標をもち、自分の夢の実現に向けて充実した高校生活を送ることができるよう、

選択幅の広い教育課程を編成するなど、多様で柔軟な教育システムづくりを進めます。

生徒減少への対応

本県の中学校卒業生数は、今後も年々減少することが見込まれ、このままでは県立高校の学校規模は、ますます小さくなることが予測されており、生徒の多様な学習ニーズに対応しにくくなることや、生徒の活動意欲が高まりにくくなることなどが懸念されます。

このため、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開ができるよう、一定の学校規模の確保を目指して再編整備を進めることにより、高校教育の質的充実を図ります。